

平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況(連結)及び業績予想の修正(連結・個別)

平成 17 年 2 月 25 日

会社名 アルゼ株式会社 ( J A S D A Q ・ コード : 6 4 2 5 )  
 ( URL http://www.aruze.com )  
 代表者 役 職 名 代表取締役社長  
 氏 名 阿南 一成  
 問合せ先 責任者(役職名) 執行役員管理本部長  
 氏 名 小林 輝彦 TEL : 0 3 - 5 5 3 0 - 3 0 5 5 (代表)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有 ( 詳細は別紙 )  
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況 ( 平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日 )

( 1 ) 経営成績 ( 連結 ) の進捗状況 ( 百万円未満は切り捨てて表示しております )

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四 半 期 ( 当 期 ) 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 3 四半期	61,067	( 37.2 )	6,022	( )	3,768	( )	4,924	( )
16 年 3 月期第 3 四半期	97,165	( 6.1 )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
(参考)16 年 3 月期	101,077		10,065		8,399		156	

	1 株当たり四半期 ( 当期 ) 純利益		潜 在 株 式 調 整 後 1 株当たり四半期 ( 当期 ) 純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 3 四半期	61	63		
16 年 3 月期第 3 四半期				
(参考)16 年 3 月期	1	96		

(注) 1. パーセント表示は、前年同四半期比増減率を示しております。

2. 売上高以外については、当第 1 四半期より開示を行っているため、前年第 3 四半期の実績及び増減率は記載しておりません。

[ 経営成績 ( 連結 ) の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当第 3 四半期におきまして、パチスロ機につきましては「ガッツだ!! 森の石松」を市場に投入し、15 インチ大型液晶上でのガッツ石松氏独特のユニークなキャラクターをふんだんに盛り込んだ演出やゲーム性が市場の高い評価を得ることができ、販売実績に大きく貢献致しました。パチンコ機につきましては、旧基準機のみを販売致しました。その結果、第 3 四半期における販売実績はパチスロ機が約 5 万台、パチンコ機が約 1 万 1 千台となり、パチンコ・パチスロ事業の今期累計売上高は 41,736 百万円となりました。

アミューズメント施設運営事業につきましては、第3四半期までに新規に4店舗を開店致しました。また、アドアーズ渋谷店4階を改装し、メンバーズカード会員限定フロア（ハイローラー向けフロア）第1号店としてオープンしました。今後も中核店への展開を予定しております。その結果、今期累計売上高は12,271百万円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	192,659	113,052	58.7	1,414 87
16年3月期第3四半期				
(参考)16年3月期	185,472	118,293	63.8	1,480 45

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 四半期での財政状態については当第1四半期より開示を行っているため、前年度第3四半期実績は記載しておりません。

3. 平成17年3月期の業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

<連結>

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回予想(A)	104,000	13,200	400
今回修正(B)	79,700	6,600	460
増減額(B - A)	24,300	6,600	60
増減率	23.4%	50.0%	15.0%

<個別>

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回予想(A)	81,600	14,500	300
今回修正(B)	56,700	7,100	4,600
増減額(B - A)	24,900	7,400	4,900
増減率	30.5%	51.0%	- %

## [業績予想修正の理由]

### 個別

第3四半期につきましては、パチスロ機「ガッツだ!! 森の石松」の販売が貢献し概ね計画通りの業績となりましたが、第4四半期につきましては、新基準のパチンコ機、パチスロ機共に認可の遅れにより売上高は前回予想を下回る見込みとなりました。

具体的には、画期的な全面液晶（エア・ビジョン）を搭載した新基準機のパチンコの市場投入により、1月、2月、3月の全面液晶技術内覧会を通じ10万台達成計画を立て、来期への飛躍の足がかりとして目標達成する準備を進めておりました。この内、第4四半期内の販売で6万台程度、約150億円の売上計画を立てておりました。

更にパチスロにつきましては新レンタルプランの立ち上げで当期中に4万台程度、約50億円の売上計画を立てておりましたが、共に認可取得遅延により販売が3月以降にずれ込む見通しとなりました。又、2月より受注を開始した旧基準機のパチスロ「闘神雷電」につきましては、新基準機への移行期間という背景もあり、現時点で計画に対し20%程度の約1万台規模の受注となっております。

販売管理費等の圧縮は継続して行っておりますが、販売時期のずれによる売上減少はカバーできず、経常利益及び当期純利益も前回予想を下回る見込みとなりました。

### 連結

上記個別の修正に加え、上場子会社であるアドアーズ株式会社及び株式会社セタの2社におきましても売上、利益共に当初予想を下回る見込みとなったため、連結業績予想に反映致しました。

また、当社持分法適用関連会社であるWynn Resorts, Limitedが増資を行い、当社グループの持株比率が約27.1%から24.8%へ低下した結果、持分法会計適用によるみなし売却益約70億円が特別利益として発生する見込みです。一方でWynn Resorts, Limitedが第2抵当証券の早期償還を行ったため、償還費用に対する持分法による投資損失約20億円が特別損失として発生する見込みです。

これらの状況を勘案し、平成16年11月9日付当社「中間決算短信(連結)」及び同日付「個別中間財務諸表の概要」にて発表した通期業績予想を修正することと致しました。

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なることがあります。

## 4. 期末配当

期末配当につきましては、従来予想通り1株につき30円を予定しております。

## 5. 今後の主な取組み

上述した通り、当期につきましては厳しい経営実績となる見込みです。しかしながら、新年度は下記の通り早期に業績回復が期待できる施策を講じております。

### 20インチ液晶搭載パチンコ機（エア・ビジョン）の販売拡大

昨年7月より販売を開始しました20インチ液晶タイプのパチンコ「エア・ビジョン」シリーズは、新年度以降に販売可能となるタイトルのラインアップ化を完了致しました。これにより、これまでのパチンコ機にないダイナミックな映像演出をユーザーの皆様にご提供する事で、爽快感を十分堪能して

頂ける商品提供が可能となりました。パチンコ市場での当社グループの地位を確立するため、新年度は16機種申請を行い、24万台の販売を目指します。

#### パチスロ機新レンタルシステムの導入及び市場への早期浸透

単一電源による透過型液晶搭載パチスロ機のお客様へのご提供方法を抜本的に変更した独自のレンタルシステムを新年度以降早期に設置を開始致します。独自のレンタルシステムの説明を全国の店舗を訪問しておこなわせるため、営業能力を増強し、専属のアルゼパートナーレディとして約200名の増員を計画しております。3月の認可獲得と同時に研修を行い、月間設置目標を新年度の4月から達成させ、最終的には40万台を導入する計画をたてております。これらは、従来の筐体コストの2分の1の価格までレンタル費用を下げ、また筐体使用期間は2年間以上の耐久性を持たせたなかで、コンテンツソフトビジネスを目的とした取組みを開始させていただきます。パチスロのコンテンツ開発としては、映像技術や演出面でも高レベルのコンテンツを16機種以上申請し、質・量ともに重視した開発をおこなってまいります。

当社のお客様にとって最良のパートナーとなるべく、更に環境対策に最大限配慮した省資源製品開発を断行しました。これにより新年度の早い段階で売上の確保を実現致します。

#### 製品のコストダウンと環境問題への対応

部材のリユース・リサイクルを徹底的に行い、コストダウンを推進致します。併せて、廃棄物を減らし環境に優しい製品を提供してまいります。市場平均に対し80%以上の省資源化を目指し商品開発を継続中です。

#### 海外向けカジノ機器販売の本格開始

新年度より海外カジノ向け製品開発に本格的に取り組み、米国市場、アジア市場等、世界のカジノ市場向け製品販売を活発化させる体制整備を完了致しました。カジノ市場は今後とも大きく発展する余地を秘めており、当社は抜本的な新組織体制により大きく飛躍できると考えております。

以上

- 添付資料
- ・(要約)四半期連結貸借対照表
  - ・(要約)四半期連結損益計算書
  - ・四半期連結剰余金計算書
  - ・四半期財務情報作成のための基本となる事項

## 【添付資料】

## (要約)四半期連結貸借対照表

(百万円未満切り捨て)

科 目	期 別	当四半期		参考：平成16年3月期	
		(平成16年12月31日)		(平成16年3月31日)	
		金 額	構成比	金 額	構成比
		百万円	%	百万円	%
(資産の部)					
流動資産	産				
1. 現金及び預金	金	54,281		32,598	
2. 受取手形及び売掛金	金	14,434		19,100	
3. たな卸資産	産	23,114		20,294	
4. 繰延税金資産	産	5,778		2,327	
5. 未収法人税	等			9,292	
6. その他	他	4,997		13,157	
7. 貸倒引当金	金	629		68	
流動資産合計	計	101,976	52.9	96,702	52.1
固定資産	産				
(1) 有形固定資産	産				
1. 建物及び構築物	物	10,071		10,209	
2. 機械装置及び運搬具	具	2,928		3,051	
3. レンタル資産	産	655		1,272	
4. アミューズメント施設機器	器	3,094		2,900	
5. 土地	地	18,769		20,698	
6. その他	他	3,384		3,265	
有形固定資産合計	計	38,904	20.2	41,398	22.3
(2) 無形固定資産	産				
1. 連結調整勘定	定	283		1,019	
2. その他	他	2,278		2,082	
無形固定資産合計	計	2,562	1.4	3,101	1.7
(3) 投資その他の資産	産				
1. 投資有価証券	券	37,402		33,027	
2. 長期貸付金	金			500	
3. 敷金保証金	金	8,419		8,626	
4. 破産更生債権等	等	3,762		3,340	
5. 繰延税金資産	産	1,344			
6. その他	他	2,827		2,412	
7. 貸倒引当金	金	4,601		3,638	
投資その他の資産合計	計	49,155	25.5	44,269	23.9
固定資産合計	計	90,623	47.1	88,769	47.9
繰延資産	産	60	0.0		0.0
資産合計	計	192,659	100.0	185,472	100.0

(百万円未満切り捨て)

科 目	期 別	当四半期 (平成16年12月31日)		参考：平成16年3月期 (平成16年3月31日)	
		金 額	構成比	金 額	構成比
		百万円	%	百万円	%
(負債の部)					
流動負債					
1. 支払手形及び買掛金		12,791		12,157	
2. 短期借入金		45,773		35,013	
3. 1年以内返済予定の長期借入金		1,463		3,107	
4. 未払金		1,616		2,188	
5. 未払法人税等		2,369		1,218	
6. 未払消費税等		146		105	
7. 前受レンタル料		65		953	
8. 賞与引当金		235		397	
9. その他		1,021		635	
流動負債合計		65,484	34.0	55,778	30.1
固定負債					
1. 社債		3,200			
2. 長期借入金		2,692		2,624	
3. 繰延税金負債				48	
4. その他		2,388		2,584	
固定負債合計		8,281	4.3	5,257	2.8
負債合計		73,765	38.3	61,036	32.9
(少数株主持分)					
少数株主持分		5,841	3.0	6,142	3.3
(資本の部)					
資本金		3,446	1.8	3,446	1.9
資本剰余金		7,503	3.9	7,503	4.0
利益剰余金		104,940	54.5	111,426	60.1
その他有価証券評価差額金		17	0.0	23	0.0
為替換算調整勘定		1,019	0.5	2,270	1.2
自己株式		1,836	1.0	1,835	1.0
資本合計		113,052	58.7	118,293	63.8
負債、少数株主持分及び資本合計		192,659	100.0	185,472	100.0

## (要約)四半期連結損益計算書

(百万円未満切り捨て)

科 目	期 別	当四半期		参考：平成16年3月期	
		〔 自平成16年4月1日 至平成16年12月31日 〕		〔 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日 〕	
		金 額	百分比	金 額	百分比
		百万円	%	百万円	%
売 上	高	61,067	100.0	101,077	100.0
売 上 原 価	価	37,298	61.1	62,523	61.9
売 上 総 利 益	益	23,769	38.9	38,554	38.1
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		17,747	29.1	28,488	28.1
営 業 利 益	益	6,022	9.8	10,065	10.0
営 業 外 収 益	益	604	1.0	868	0.8
営 業 外 費 用	用	2,857	4.7	2,534	2.5
経 常 利 益	益	3,768	6.1	8,399	8.3
特 別 利 益	益	4,816	7.9	948	0.9
特 別 損 失	失	16,117	26.4	5,821	5.7
税金等調整前四半期純損失( )					
又は税金等調整前当期純利益		7,531	12.4	3,526	3.5
税 金 費 用	用	2,355	3.9	2,785	2.7
少 数 株 主 利 益	益	251	0.4	584	0.6
四半期純損失( )又は当期純利益		4,924	8.1	156	0.2

四半期連結剰余金計算書

(百万円未満切り捨て)

科 目	期 別		(参考：平成16年3月期)	
	当四半期 〔自平成16年4月1日 至平成16年12月31日〕		〔自平成15年4月1日 至平成16年3月31日〕	
	金 額		金 額	
	百万円		百万円	
( 資 本 剰 余 金 の 部 )				
資 本 剰 余 金 期 首 残 高		7,503		7,503
資 本 剰 余 金 四 半 期 末 ( 期 末 ) 残 高		7,503		7,503
( 利 益 剰 余 金 の 部 )				
利 益 剰 余 金 期 首 残 高		111,426		116,258
利 益 剰 余 金 増 加 高				
1. 当 期 純 利 益	-		156	
2. 関連会社の持分変動に伴う剰余金増加高	808			
3. 連結子会社合併による剰余金増加高	27		-	
4. 連結子会社除外による剰余金増加高	-	836	1	157
利 益 剰 余 金 減 少 高				
1. 四 半 期 純 損 失	4,924		-	
2. 配 当 金	2,397		4,399	
3. 役 員 賞 与	-		206	
( うち 監 査 役 賞 与 )	( - )		( 5 )	
4. 連結子会社増加による剰余金減少高	-	7,321	383	4,989
利 益 剰 余 金 四 半 期 末 ( 期 末 ) 残 高		104,940		111,426



## 四半期財務情報作成のための基本となる事項

当社は、連結財務諸表等の作成基準をベースとしつつ、以下のとおり投資者等の利害関係者の判断を大きく誤らせない範囲で一定の簡便な手続を採用しております。

### 〔簡便な手続の内容〕

1. 実地たな卸については継続記録が整備されていることを条件として省略しております。
2. 原価差額の調整については全社ベースで調整しており、原価差異をたな卸資産に配賦せず、売上原価に含めて処理しております。
3. 貸倒引当金の計上基準は、貸倒実績率については前連結会計年度末の実績により計算しております。
4. 減価償却費については、年間償却予定額の月割額を計上しております。なお、期中に売却あるいは除却する場合の減価償却費については、売却あるいは除却までの期間に見合う償却は、通常実施しております。ソフトウェア、営業権及び長期前払費用の償却も同様です。
5. 法人税等の計上基準は法定実効税率に基づき計算しております。また税効果については、連結調整項目を除いて前連結会計年度末より原則見直しをしておりません。
6. 賞与引当金については、前連結会計年度末の繰入見込額を月割で計上しております。
7. 経過・未経過勘定の処理については、計算期間が概ね同じなど大きく変動しないものが全般を占めており、前連結会計年度末よりそのまま繰り越しております。